

三宝水再生センターの概要

■ 三宝水再生センター

堺市の北端、大阪湾に近い臨海エリアに位置し、堺市の約15%のエリアの下水を処理。

- 昭和38年8月供用開始
- 処理能力: 120,200(m³/日) , 計画処理人口: 175,500人
- 地域に開かれた施設として、各種イベントを実施するなどの取り組みを行っている。



三宝水再生センター周辺図



三宝水再生センター



地元高校とコラボした
ライブキッチンの開催



大阪マンホールフェス

三宝水再生センター リノベーション計画の概要

三宝水再生センターでは、処理水、下水熱、オープンスペースなどの貴重な資源を活用することで、下水処理場としての枠を超えた様々な役割を担っている。各種の「拠点」としての機能を維持・向上させ、地域の活性化及び防災力の強化を図る。

- **エネルギー供給拠点化**: 下水再生水を約2km離れた大型商業施設に送水し、再生水が有する熱を給湯・空調用の熱源として利用。
- **防災拠点化**: 地域防災計画において、「三宝水再生センターの防災拠点化」を位置付け。その一環として、三宝水再生センター内に「災害対策センター」を設置するとともに、処理機能の耐震性の向上を推進。
- **憩い・賑わいの拠点化**: 場内では、処理水を利用した約100種、約1,600株のあじさいを栽培しており、あじさい祭りを毎年開催しているほか(H30は9日間で約9,600人来場)、施設の一部空間に公園を新たに整備。

《エネルギー供給拠点化》



大型商業施設への熱供給

《防災拠点化》



災害時の防災拠点、地域の一時避難所



施設の耐震補強 (イメージ図)

《憩い・賑わいの拠点化》



処理水によってあじさいを栽培し、市民へ開放

これらの取り組みを維持・向上させることで、三宝水再生センターの「魅力あふれる地域の拠点化」を目指す。